

# 令和5年度京都広報賞受賞作品の概要 (別紙)

## 広報紙・市の部



### 福知山市 広報ふくちやま10月号



#### (審査委員講評)

写真が大きく、読者受けする“まるで雑誌のような”デザインですが、その見た目よりも、地域への愛があふれた取材姿勢に好感を覚えました。取材対象者を夜久野の街の高齢者と若い女性としたことで、地域を立体的に捉えることにも成功しています。「」の中のご本人の言葉も、本人のキャラクターを生かして、リーダブル。そんな住民の声を通して、市民と行政の良好な関係が見えてきます。「福知山の文化財」や「SDGs Journal」などのレギュラー記事も、丁寧な記述ぶりでした。



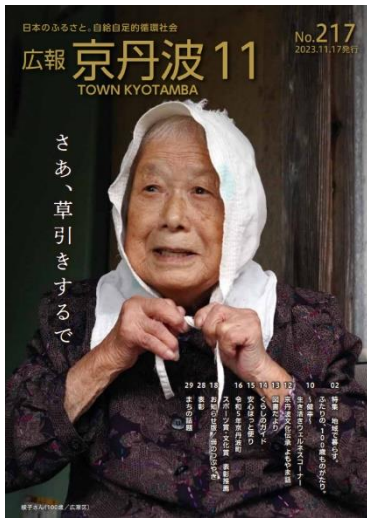
### 京都市 きょうと市民しんぶん6月1日号



#### (審査委員講評)

構成、テキスト、デザインすべてにおいてクオリティが高く、「プロの仕事」という印象です。「防災ピンゴ」の企画は良い入り口。ページをめくる動機付けになります。要所要所で市職員や関係者が顔出しでコメントを載せているのも好感。ちょっとしたコメントでも、話し手が見えると伝わり方が違います。お名前は入れられませんでしたか？ ワガハイとミッケの狂言回しも効いています。

京丹波町 広報京丹波217号

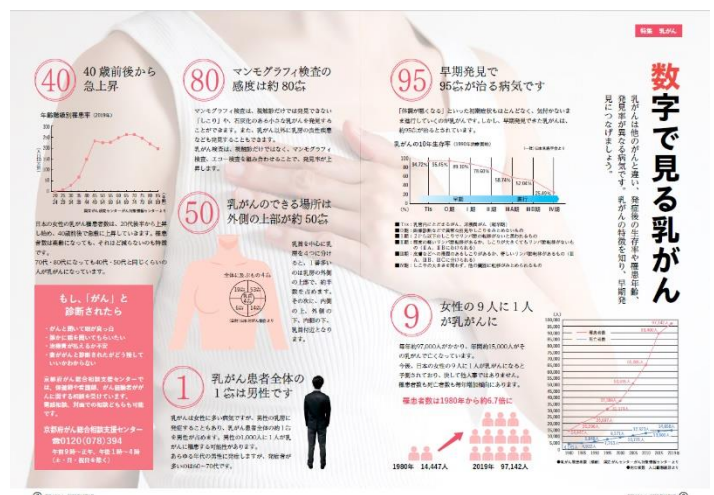


(審査委員講評)

表紙のビジュアルとコピーがユニーク。「100歳と100歳で200歳」の企画は白眉。人生100年時代の生き方を考えるきっかけを与える企画でした。取材対象者との関係づくりに相当な時間と労力を掛けたことでしょう。洗濯物を干しているシーンとか、普通の関係性では撮影させてもらえませんよ。コストの制約からか、表紙以外は全てモノクロですが、それをデメリットと感じさせない写真とレイアウトの力。取材対象者の方言のニュアンスを生かした文章力もお見事です。

会長賞

久御山町 広報くみやま 10月1日号



(審査委員講評)

36ページとかなりのボリューム。ページ数をたっぷり使って、乳がんについて様々な角度から特集を組んでおり、受診に繋げる工夫が感じられます。表紙に登場している方は、モデルさんかと思ったら、乳がん検診を受診している普通の住民さんなのですね。普通の生活者に脚光を当てるのも、広報紙製作者の腕の見せ所です。年24回の発行回数自体、市民に何かを伝えたいという行政の意思が感じられます。



## 写真・1枚写真の部

知事賞

福知山市  
広報ふくちやま  
10月号8ページ  
こたに みさき  
(小谷 美咲さん)

(審査委員講評)

素晴らしい風景の下、のびのびとした被写体の姿が写し出されています。青空に浮かぶ表情のある雲に連動するかのようなポーズが秀逸。文字の置き方も洗練されています。構図、アングル、シャッタータイミングの全てから熱意と力量が伝わってきます。



やくの高原まつり実行委員

小田垣 咲良さん (24)

会長賞

京丹波町  
広報京丹波  
215号1ページ  
うえだ  
(上田さくらさん)

(審査委員講評)

なんと美しく、やさしい情景でしょうか。黄金色の田んぼ、虫取りをする少女、奥の河岸段丘と、構図や色合いも完璧です。赤とんぼに見立てたというキャッチコピーも素晴らしい。被写体の顔よりも少し前ピンになっているのだけが残念です。来年の応募写真に期待しています。



日本のふるさと。自給自足の循環社会

広報 京丹波9  
TOWN KYOTAMBA

No.215  
2023.9.15発行

わたしの秋、みいっつけた

28 27 25 14 12 11 10 09 08 06 02  
特集 双葉町のいま学びに  
ふじやま  
生き活きツエルネスコーナー  
ふじやま  
図書だより  
くらしのガイド  
安心安心の  
京丹波町の給食状況  
お城の歴史  
赤とんぼ  
生産者レポート  
くるみの茶のお手料理レシピ  
ALETメッセージ

黄金色に輝く田んぼで  
赤とんぼに夢中の美及梨ちゃん

知事賞

亀岡市 広報かめおか8月号2、3ページ

またに つとむ  
(眞里谷 努さん)



(審査委員講評)

青々とした空といきいきした緑、一目でキャンプに行ってみた！と思わせる組写真です。人物の笑顔やバーベキューの写真も美しく、上品なバランスでレイアウトされています。フロントも今風ながら読みやすいキャプションに仕上がっています。左下の人物のポーズもよく練られていて素晴らしいです。

会長賞

南丹市 広報なんたん10・11月号6、7ページ

まえだ たけひろ  
(前田 武祐さん)



(審査委員講評)

一般的には静的であると思われる能楽を、実に迫力を持って捉えた素晴らしい組写真です。写真の配置もしっかりと視線誘導がなされており、日頃能楽に興味のない人でも思わずひきこまれるようなレイアウトに仕上がっています。是非来年もがんばってください、期待しています。

京丹波町 京丹波町が生んだ教育者 十文字こと  
150年の時空を超えて 現代（いま）に伝わる魂



（審査委員講評）

明治時代、京丹波町で14歳までしか暮らしていなかった十文字さんを番組で取り上げることを決めた制作者の執念が感じられる作品である。紙面であれば写真と文字で構成できるが、映像では限られた写真素材だけで構成していくのはかなりのスキルが必要だが、全体構成がよく練られ視聴者に伝えたいことが丁寧に表現されている。広報誌では限られた紙面の中での情報量だが、番組を見た地域の方は感じるが多かったと思う。京丹波町として紙面と映像の連動という意味でも成果は大きい。

最後に「丹波へつれて帰っておくれ」と言い鐘が鳴るシーンは、この人物の人生が凝縮される印象的なシーンであった。また広報番組として町長のインタビューや協定内容に触れていた点も、制作者は自治体の役割を十二分に理解している。

舞鶴市 舞鶴市の消防団が変わります  
～令和5年4月 新体制スタート～



（審査委員講評）

オープニングダイジェスト、消防団員の再現による問題提起、NAによる概要説明、現役団員のメッセージと全体の構成のまとまりが素晴らしい。

オープニングのダイジェスト映像は、静止画と動画を組み合わせ効果的に興味を惹く内容となっている。団員によるドラマ風の問題提起はオープニングのスピード感あるダイジェストと緩急の差があり印象に残る。視聴者に伝えるべき内容はNAでグラフ、写真を効果的に使い非常に分かりやすい。また固い概要説明後に団員によるメッセージで締めることで、再度、緩急があり温かみのある視聴者の心をつかむ作品となった。全体的に特筆する点としてはBGMの選曲が素晴らしい。場面に応じたBGMによって全体の質が格段と上がっている。



知事賞

## 宮津市 天橋立のあるまち～吉津でおくる丁寧な暮らし～



(審査委員講評)

「丁寧な暮らし」というキーワードが心にストン落ちる美しい作品だ。ポイント、ポイントで宮津の美しい描写が盛り込まれ、宮津の空気感を感じることができる。移住促進のPR映像は押しの強い作品が多いが素朴なストーリーの中に宮津の持ち味が存分に生かされている。何より素晴らしいのが映像を作るのが目的ではなく制作の過程を大事にしている点だ。制作過程で地域の方の意見を取り入れたこと、制作に携わらせてことで地域の方にとっても誇れる作品になったと思う。本編を見た後にメイキング映像を見たのだがここまで地元の方が作品作りに携わっているとは思わなかった。今後各所で上映する時はメイキング映像のダイジェストを流した後に本編を流せばさらに良いと思う。

会長賞

## 宇治市 Uji City Attraction Video



(審査委員講評)

宇治市に貢献したいという地元高校生の相談を受け入れ、市がバックアップと言う形で高校生の気持ちに全面的に応えた点が素晴らしい。内容も高校生ならではの企画で12ヶ国の観光客にオール英語で制作した点も市町村広報動画では初の試みで面白かった。若い視点での企画は市の活力につながる。広報での市民協働のモデル事例となる作品である。

南丹市 広報なんたん 10・11月号

<府民賞> 府民から見た広報紙の読みやすさ、見やすさをWEB投票によって決定。



(主な意見)

- 特集記事らしい内容豊富で市の魅力が分かりやすい内容でした。ただ情報量が多すぎる気がしました。出来るだけ紹介したい気持ちはわかりますが、詰め込み過ぎのような気もしました。
- 非常に読みやすい。本当はこれくらい文字や写真が大きく、情報は簡潔なのが1番良いと思う。